



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

# 今日一日を頑張り切ること

現在身延山で修行をさせていただいている廣修が中学生の頃、ある詩を紹介してくれました。相田みつをさんの『いのちの根』という詩です。

なみだをこらえて

かなしみにたえるとき

ぐちをいわずに

くるしみにたえるとき

いいわけをしないで

だまって批判にたえるとき

いかりをおさえて

じっと屈辱にたえるとき



あなたの眼のいろが  
ふかくなり  
いのちの根が  
ふかくなる

人生の修行というものは、このいのちの根を深く  
することかもしれません。それには相田さんの詩のよう  
に何よりもまず堪忍、忍耐が大事です。

杉山先生は「今日一日の堪忍」と言われました。御開  
山上人のご法話集に「半日の堪忍」という話があります。  
杉山先生から「堪忍はむずかしいことです。あなたに  
一日中堪忍しなさい」というのは無理だと思いますが、  
どうですか。半日ぐらいならできですか」と尋ねられた  
御開山上人が、「半日ぐらいならできないことはありません  
せん。それが済んだら怒ってもいいんですか」と聞かれ



ました。すると「それではいけません。でもお昼までで  
きたら、また晩までと思って半日ずつやることにしたら  
どうですか」と答えられました。御開山上人は「そうで  
すか、先生。良いことになるのでしたら一つやってみま  
しょう」と言って実行されたのです。また二十代前半の  
頃の話です。やってみると本当に気分が良く、〃これな  
ら半日ではなく、一日の方が良いだろう〃と思われたそ  
うです。そこで「先生、〃今日一日、今日一日〃と思っ  
てやってみます」と杉山先生に報告すると、先生はた  
いそう喜ばれて「あなたはえらい。『此経難持 若暫持  
者 我即歡喜』と言われているように、仏さまの教えの  
『仏になる道』というのは、なかなか行いにくいもので  
す。それがあなたのように、〃半日やってみるか〃と言  
ったら半日やって、〃今日一日でも堪忍できるような  
った〃と言われる。そのことが『此経難持 若暫持者』  
ということ。誰が楽しいのはそのことです。



「今日一日だけ、今日一日だけ」とやりなさい」と言われたそうです。

最近、芸能人やスポーツ選手が薬物に手を出して逮捕されるといったニュースをよく耳にします。一度薬物に手を出すと、止めることはとても困難だそうです。

『ダルク』という薬物依存症の更生施設があります。ダルク (DARC) とは、ドラッグ (Drug) 薬物) の D、アディクション (Addiction) 中毒、病的依存) の A、リハビリテーション (Rehabilitation) 社会復帰・回復) の R、センター (Center) 施設・建物) の C を組み合わせた造語です。茨城ダルクの代表をされている岩井喜代仁さんという方がいます。岩井さんの施設は、「今日一日ハウス」という別名があります。茨城ダルクは「人間再生工場」とも言われています。岩井さんは代表になつてから何千人という薬物依存者と向き合ってきました。



そしてその半数近くを社会復帰に導かれたのです。

岩井さんは元ヤクザの組長で、覚醒剤の密売人でもありました。十七年もの間薬物中毒でしたが、45歳の時に改心してダルクの代表になりました。岩井さんは言われます。「薬物の恐怖などということをよく言う。だがその言葉の本当の意味がわかるのは薬物を使用する人間、あるいはそれによって苦しむ家族達である。一度体で覚えたクスリの快感は、決して忘れられないし、なかなか抑えきれるものではない。自分がダメになる、家族も仕事も金も何もかも失うと知りつつ、また手をだしてしまふ。その行きつく先は地獄。それが薬物だ。私はかつて十七年間も、その快感を追い求めてきた。クスリがどれだけ気持ちの良いものか。逆にそれがいかに悲惨な現実を招くか。骨の髄まで知っている男である。縁あって今は覚醒剤を売ったり使用する立場から、薬物依存になつた人達の回復を助ける立場へと変わった。だが、そんな



私でも相談に来た若者が目の前に覚醒剤をポロツと出したら、それだけで心臓がドキドキする。内緒でポケットに入れ、どこか人のいない所に持って行って使おうか。そんなことまで考えてしまう。薬物を使ってニコニコ笑っている若者を見て、この野郎どうらやましく思うのが偽らざる姿だ。敵は薬物だけではない。過去の自分と生涯にわたって戦い続けなくてはならない。これが私に課せられた宿命なのだ」

岩井さんは昭和22年、京都に生まれ、中学卒業後には愚連隊に入っていました。23歳の時にはヤクザの組長で、自分が百人程いました。そして子供達を食べさせるために覚醒剤を売っていたのです。その時、客の一人だった近藤恒夫という男に「お前、売るなら、いっぺん使ってみろ」と言われて、一度だけ使うと、そこから地獄が始まったのです。それから、日々依存度がエスカレートし、



覚醒剤による不始末で指を落とすことになってしまいました。グスリを止めなくてはいけない〴〵と思いましたが、翌月にまた不始末をし、二本目の指を落とすことになってしまいました。〴〵このままでは全部の指がなくなる〴〵と思つて、腹を括つてヤクザをやめ、グスリを止めた。一心で遠く離れた北海道に行きました。しかし、北海道でも覚醒剤の密売人になってしまいました。東京と北海道を行き来するうち、羽田空港で逮捕されました。その時に奥さんは子どもを置いて出て行ってしまいました。

岩井さんは捕まった時に、〴〵刑務所に入ったらグスリを止められるかもしれない〴〵と思つたそうです。しかし、執行猶予がついてすぐに社会に戻ることになりました。〴〵もう絶対にグスリを止めよう〴〵と心に誓いましたが、足が向いたのは新宿の密売人のところでした。〴〵これではいけない〴〵と思つて、埼玉県の飯能の山奥に息子と一



緒に逃げました。しかし、気がつくのと、また覚醒剤を手  
にしていきました。この頃、幻覚や幻聴が現れ出しました。  
虫の大群が自分めがけて襲ってくる感覚になり、狂った  
ように殺虫剤をまき散らしました。また風の音や鳥の声  
が人の声のように「死ね、死ね」と聞こえてきました。  
死ぬしかない〴〵と、思っ高木にロープを下げ首にか  
けます。しかし下を見ると覚醒剤があります。あの覚  
醒剤を使ってから死のう〴〵と、何度も同じことを繰り返  
しました。

ある時、もう金輪際覚醒剤を使うまい〴〵と思、湧  
き水の中に覚醒剤を投げ捨てました。その時、声が聞こ  
えたのです。

後から登ってきた人が水を飲めなくなるだろう。何を  
考えとるんだ。馬鹿者〴〵

また幻聴かと思っ上を見ると、木の上にお地藏さん  
が乗っていました。そしてそのお地藏さんが、わしは



ここをずっと守っている。見つけたんだから早く降ろせ、  
と言ったように感じ、息子を呼んできて、二人でお地蔵  
さんを木から降ろして、湧き水のところに置きました。  
すると不思議なことにクスリを使いたい気持ちがおさま  
りました。

それからほとんどクスリを使わないようになり、真  
面目に働こうぐと思うようになりました。しかし、雇っ  
てくれるところがありません。生活に困り果て、たまた  
ま見た週刊誌に、覚醒剤使用のきっかけになった、かつ  
ての常連客の近藤恒夫が載っていました。東京で日本初  
の『ダルク』を設立したということでした。藁にもすが  
る思いで、会いに行きました。そして今までのことを洗  
いざらい話すとき近藤は言いました。

「じゃあ俺から提案がある。お前はクスリを選ぶか、ヤ  
クザの道に戻るか、人生をやり直したいのか、この三つ  
のどれだ」



「人生をやり直したい」

「そうか、俺から見たらお前はただ一つだけ救いがある。それは自分の子どもを捨てなかったことだ。人間としての情が切れていない。お前ならまだ回復できるかもしれない。どうだ、俺の言うとおりにやってみるか」

そして、茨城ダルクに月給十七万円で住み込みの調理師兼留守番として雇われたのです。それからも紆余曲折はありましたが、岩井さんは、薬物と一切縁を切る事ができました。

しばらくして、元ヤクザのダルク代表という事で話題になり、講演依頼が殺到しました。しかし、岩井さんは、自分のような元ヤクザがこんなことをしている良いのか。早く後継者を見つけて出ていった方が良いのではないのかと悩んでいました。そこでカトリック教会の神父さんに相談しました。最初にダルクを支援し



てくれたのが、カトリック教会だったのです。神父さんは「やめる必要はありませんよ。あなたを神さまが求めて待っていらしたのですから、自分の仕事を精一杯やったら良いと思いますよ」と言いました。それから定期的に神父さんに相談するようになり、ついには洗礼を受けるまでになりました。

岩井さんは常時40名程の若者と暮らしています。生活はとても規則正しく、日に何回もミーティングをし、告白をして、お互いに慰め、励まし合います。入って来る若者は刺青があったり、薬物で心身ともにボロボロになっっていたり、クスリ欲しさに万引きや窃盗を繰り返したり、精神病院に入れられたりといった荒んだ若者ばかりです。数千人の若者の面倒をみて、社会復帰できたのは半分ぐらいですが、一回で社会復帰できたのはごく少数です。ほとんどの若者はダルクに何度も戻ってきます。



規則正しい生活を送ることができずにすぐ逃げ出す者も  
います。施設の中で自殺してしまう者もいます。  
多くは入ってほしい三カ月ぐらいで正常になり、体  
が元に戻ってくるそうです。すると、だんだん打ち解  
けて岩井さんに「おう、オヤジ」と呼ぶようになり、「オ  
ヤジ、俺仕事がしたい」と言うようになるそうです。こ  
うなるまでには一年程かかるのだそうですが、岩井さん  
からは「アルバイトや仕事に行くように」とは絶対に言  
わないそうです。本人が言ってきたら「そうかそうか」  
と仕事を紹介するのです。そして短時間のアルバイトが  
できたら本格的に社会復帰をさせるのですが、大半はま  
た薬物に手を出して刑務所や病院を経て戻ってきてしま  
います。そうして戻ってくる若者達に岩井さんは「おう、  
よう帰ってきたな」とひとこと言って、それ以上何も言  
わずに、何事もなかったかのように受け入れるそうです。



すぐに戻ってくる若者達には二つのケースがあるそうです。

一つは、友達の家に行つて、友達と薬物に手を出してしまふ。

もう一つは、実家に帰るが、実家の両親が甘すぎて、親離れ子離れができていない。子どもが何か悪いことをするとすべて尻拭いをしてしまひ、子どもを突き放すことができず、親子で地獄に落ちてしまふ。そんな様子をみて、岩井さんは親達に「突き放さないといけない。心を鬼にして、お前は罪を犯したのだから、刑務所に行くか、自立をするか、ダルクに行くか、三つに一つを選べ。それ以外はない。そう言つてくれ」と話します。そうして、自分から「ダルクに行く」と言つた若者を受け入れます。これが親離れ子離れの基本、人間を立ち直らせる原点だと岩井さんは言います。



薬物依存の子どもを持った親は子ども以上に心が苛ま  
れています。そんな親達を助けるために、悩みを相談し  
合う家族会を作りました。現在全国に十六カ所あるそう  
です。家族会を運営していくうちにあることがわかりま  
した。夫婦の仲が良い家庭で育った子ども程、薬物から  
の回復も早いのです。夫婦が仲良くしているのを子ども  
が協で眺める。これが一番だということも分かりました。  
薬物からの回復をするためには家族関係の修復は欠かせ  
ないそうです。岩井さんは、その最初のモデルになるた  
めに、奥さんや息子さんとの関係を修復し、今では岩井  
さん家族の実践が、家族会のモデルケースとなっている  
そうです。

現在、茨城ダルクは、他のどこのダルクよりも回復率  
が良いということで評判になっています。  
茨城ダルクの社会福祉法人化に対して、地域の反対運



動どうが起おこったことがありました。岩井いわいさんは何なん度も神かみに祈いのりました。そして、神かみさまは何なにをしているんですか。私は命いのちがけで一いっ生しょう懸命けんめい頑張がんばっているのに…とふと思おもったそうです。その時ときです。いろいろな人ひとから「うちの建たて物ものを使つかってくれ」「施設しせつを使つかってくれ」と申し出でがあり、関東かんとう・東北とうほく地方ちほうに九こつのダルクが次々つぎつぎと誕生たんじょうしました。

「ああ、神かみさまはこういうふうかんがに考かんがえておられたのか。ちやんと神かみさまは我々われわれのこことを見みておられたのだ。何も心配しんぱいすることはないのだ」と神かみさまの働はたらきを実感じっかんされたそうです。

岩井いわいさんは言いわれます。

「自分じぶんの見栄みえも外聞がいぶんもすべて捨すてて、正直しやうじきな心こころになっなった時とき、見みえない力ちからが働はたらくのです。これこれを私達わしたちは、靈れい的てき（スプリチュアル）な、偉大いだいな力ちから（ハイヤーパワー）と呼よんでいます」



また薬物依存からの回復もこの力による、**霊的目覚め**が大事とも言われます。

茨城ダルクの別名は「今日一日ハウス」です。岩井さんの言葉です。

「今日一日はクスリを使わない。過去使ってきたけど、ここに来たからには、今日一日クスリを使わない。そして明日も一日使わない。今日一日をどれだけ気分良く、明るく強く過ごせるか。与えられた環境に感謝して、今日一日を生きる。そこに不思議な力が生まれてくる」

私達も「今日一日」です。先のことを考え過ぎず、今日一日を頑張り切ることが大切です。今日一日を功德の日としましょう。

